ポスター発表Ｐ④

徳島大学の新スキルスラボ紹介②
—職種と医療機関を超えた医療人教育を目指して—

福富美紀・長宗雅美・寺嶋吉保・射場智美・赤池雅史
（徳島大学大学院ﾍﾙｽﾊﾞｲｵｻｲｴﾝｽ研究部医療教育開発ｾﾝﾀｰ）

１．背景

徳島大学の蔵本キャンパスには、医学・歯学・薬学・栄養学・保健学に跨がる医療系の 3 学部 7 学科、5 大学院があり、酵素・ゲノムの各研究センターと附属病院を加え、多職種にわたる医療人と研究者の養成を担う生命科学の一大教育・研究拠点を形成しいる。2004 年にはこれらを統合してヘルスバイオサイエンス研究部（HBS 研究部）が設置され、組織横断的な教育支援のために医療教育開発センターが開設された。医療教育開発センターでは、教育支援の一つとして設置当初より、スキルスラボ（臨床技能学習施設）の管理・運営を行ってきた。2008 年よりインストラクターを配置、2009 年 5 月に改修移転し稼働している。

徳島県の「蔵本総合メディカル・ゾーン」構想により、2 年後には徳島大学病院と新築完成予定の徳島県立中央病院がブリッジで繋がり、入院病床 1156 床の日本有数の医療環境が実現する。スキルスラボは、この「総合メディカル・ゾーン」の中で中核的な臨床技能学習施設として機能することが期待されている。

医療の安全性に対する意識は年々高まっており、医療に携わる様々な職種の人々がプロとしての実践力を身につけるために、その教育方法にも工夫が求められている。これまでの徳島大学スキルスラボの活動状況と、展望を報告する。

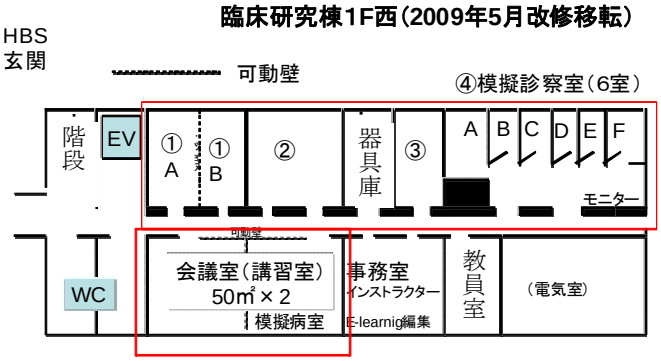
２．スキルスラボとは

スキルスラボは人体模型型の医療教育に関する物品を備えた、臨床技能学習施設である。学習者の目的に合わせて、基本的な技術学習からストーリー性のある場面設定における模擬体験など、様々な段階の学習を行うことが可能である。その有効活用には、物品の購入、管理、そして教育プログラムの充実が必要である。

近年、医学シミュレーションセンターやスキルスラボを有する医療教育機関や医療機関は急速に増加していると思われる。しかしその運営には、環境や資源、人材、経費等、多くの課題があげられている。

①環境：2009 年 5 月、医学部臨床研究棟 1 階に会議室（講習室）140 ㎡を含む 400 ㎡の新施設が完成した。様々な規模に対応できるよう可動壁を使用し、物品管理の為に壁面を収納棚として設計されている。

スキルスラボ（臨床技能学習施設: CSL）
臨床研究棟1F西（2009年5月改修移転）



(CSL：263 ㎡、＋会議室の壁を開放：会議室100 ㎡＋廊下46 ㎡)

②人材：2008 年よりスキルスラボ専任のインストラクターを配置した。学習者に効果的な学習の機会を提供するためには、物品の管理、準備が不可欠であり、それには多大の時間を要する。安定した専任インストラクターの確保が必須である。

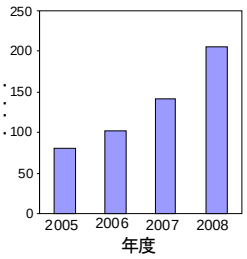
３．利用状況

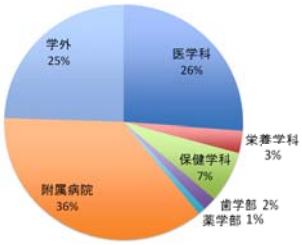
年間利用件数は毎年増加しており、2009 年度も前年度の 15%増が見込まれる。利用者の内訳については約 40%が学生利用であるが、大学病院研修医の卒後研修として 36%、学外利用は 25%であった。

学外の利用としては徳島県看護協会による「未就業看護師実務研修」や県内高校生の「医療体験実習」が含まれる。

徳島大学スキルスラボ利用状況

年間利用件数　　利用者内訳（2008年度）





2009年度は10月時点で前年度比15%増

延べ3013名

医学科 6 年生の自主学習

後期研修医による心臓ｶﾃｰﾃﾙ治療講習会

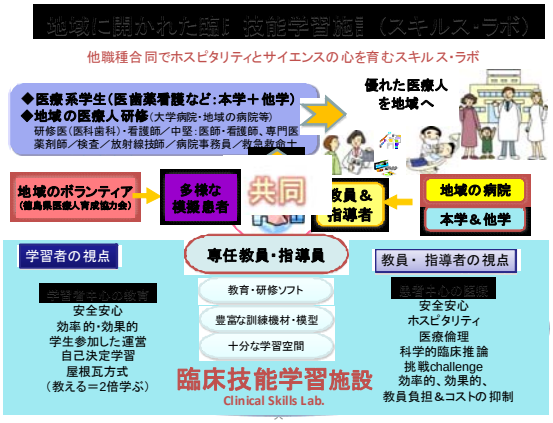
薬剤師に必要な臨床技能実習教員 FD

Simulation 医療教育ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ開催
（学生、医師、看護師、医療機器ﾒｰｶｰ会社員参加）

高校生の医療体験実習

４．今後の展望

臨床技能学習は学生に対する医学技術の導入や、これから臨床に出る初心者に重要な実技訓練の機会を提供する。同時にすでに臨床に出ている医療者の継続教育の場として、また、専門的技術を発揮するチーム力の開発、向上にも貢献できる。このような教育の開発は医療の安全性を高め、医療態勢そのものを考える重要な手段の一つであると思われる。

徳島大学スキルスラボの活動が単に学生や徳島大学病院従事者の技能訓練にとどまらず、学内外の多くの医療従事者に利用されることで、医療人の生涯学習の一環として、診療技能やその安全水準の向上に貢献できるよう努力したい。

また、総合大学である利点を活かし、医療系学部以外の学生も利用することで、社会の保健教育にも貢献できる可能性があると考えている。